

◆歴史講座

「有角石器とはなにかー弥生時代の謎の石器ー」

日時 令和5年10月29日(日)13:30~15:30

会場 浜野会館 参加者19名

講師 小林 嵩 先生(千葉市埋蔵文化財調査センター)

行事報告 ☆* *



有角石器(ゆうかくせっき)というのは、大きさはおよそ 17 センチメートル × 8.5 センチメートル、重さは 210g程度、表面はなめらかに磨かれた磨製石器の一種石斧(石の斧)に似ていて、器体の中ほどには 2 個の突起があり、先端がまさかり状を成しているもので、有角石斧(ゆうかくせきふ)または有角石器(ゆうかくせっき)と呼ばれているものです。

有角石器というのは断面形は石斧に似た一種の磨製石斧で、中央両側に短い突起(角部)があるのを最大の特徴とします。

この特徴から有角石器ないしは有角石斧と呼ばれています。

初めて研究者の目に留まったのは今から 112 年前のこと、現在の千葉県旭市で採集されたものです。それから現在に至るまで様々な議論がおこなわれましたが、今のところ儀器ということで意見が一致しています。しかし、どのような過程で成立したのかはまだ議論が続いています。

石斧に使われるような硬くて重い石材で作られていて、その多くは変質安山岩と呼ばれる阿武隈山系南部で産出する石材で作られており、千葉県内で発見される有角石器は多くが東北地方南部から入手したことが分かっています。

ところで、有角石器のこの独特の形はどのようにして生まれたのでしょうか。現在有力なのは信州方面にみられる石戈と呼ばれる武器の形をした石製品がルーツという意見です。

この有角石器が作られた時代は、関東地方でも本格的な農耕文化が成立した時代です。農耕をおこなうには様々な物資や情報が必要です。

様々な情報が錯綜する中で、信州方面から東北地方に石戈など武器形をした石製品の情報が伝わり、東北地方南部で生まれたのが有角石器なのではないでしょうか。

歴史講座 「浜御蔵の概要」

日時 令和5年11月5日(日)

9:30~11:30 会場 浜野会館

講師 今井公子先生(本会会員) 参加者31名

昨年の浜野町内の歴史散歩に続き、今年度

の講座は、浜野に存在した旧生実藩(江戸時代)の蔵「浜御蔵(はまおくら)の概要」についてのお話です。生実藩の主体地域である生実領分(りょうぶん)(生浜・椎名・誉田)と飛び地の東領分(ひがしりょうぶん)(現横芝光町・旭市などの一部地域)の年貢米を、浜野湊から江戸へ積み出すために一時保管する浜野の蔵屋敷のことです。その「浜御蔵」の場所、構造と規模、納入物品、運営・管理について史実に基づく多くの資料を示



しながら詳しい解説がありました。今回、初めて千葉県生涯大学校の学生が 7 名ほど郷土史調査の一環として主に千葉市内から集まって聴講しましたが、講師の詳しい情報量に基づく説明に感銘したと語っていました。

…歴史散歩(生実)…

日時・令和5年11月19日(日)9:00~12:00

参加者 34 名

生浜地区青少年育成委員会と本会の共催として会員の分担作業による歴史散歩。



生浜地域誌

回
覧

第68号

2023.12.30

発行

NPO 法人

ちば・生浜

歴史調査会

電話

080-5387-
2592

✿快晴の冬晴れ、新坂で振り返るとなんと富士山が見えた、浜野から見える富士よりも大きく見えるのは不思議ですが、昔の人はこんな富士を見ていたんだなあ…、生実の高台は海拔25メートルほど浜野は2メートルほど、その違いを実感させられました。7000歩強の180分弱の散歩は身体にも、昔の事を知ることができて頭にも有益なものでした。✿

〈概要〉

●戦国時代(1467年～1615年)には「小弓城」という城があり、現在の生浜地域を含む一帯を千葉氏家臣 原氏が広く統治していた。その頃は高台を砦として利用しており、椎名富岡の高台は「木の岡砦」、椎名の高台は「椎名城」、南生実の高台は「小弓砦」、生浜東小の高台は「長山」、県立生実学校の高台は「柏崎砦」であった。「小弓城」の本丸は現在の重俊院東・生実神社の方角にあり、堀も現在の生実池から長山の下の方まであったことをしのばせる大きな城であったようだ。そしてまた海岸方面(現在の浜野町本行寺の傍)には出城としていた跡(浜御蔵はまおくら)が残されている。現在は住宅地となっており、江戸時代は生実藩によって江戸に運ぶ物品の保管場所として使われていた。

●森川山重俊院と生実陣屋 徳川幕府二代将軍秀忠に殉じた生実藩初代藩主 森川出羽守重俊(しげとし)の菩提を弔うため、二代 重政が建てた菩提寺です。江戸時代に森川重俊が生実地域と飛び地を合わせて幕府より一万石を賜り統治していた。それは小弓城の一部を「生実陣屋」として役所に使用し、現在も当時がしのばれる狭い陣屋への道が残っていて、現在は道の左右に生実町民が暮らしている。

●今から180年前の生実陣屋とは 1843年 天保14年の北生実村。

- ・家数…199軒(専業農家97軒=48.8%)。その他は菓子屋・煎餅屋などの商店67軒。職人35軒。郷宿(ごうやど)2～3軒。
- ・郷宿…役所などに用事できた近隣の村人が泊まる。宿通りは賑わっていた。(森川家文書より)1794年寛政6年。北生実村が「新坂」「横宿」の坂の工事をした。

●生実神社 もとは「御靈(ごりょう)神社」と呼ばれていました。「御靈」とは非業の死を遂げた怨靈(おんりょう)に対する尊称で、祈祷しても祟りが静まらない場合の策として、怨靈を守護靈に祀り上げて信仰しておさめようとするものです。

●本満寺 京都妙塔山妙満寺派の末寺で、日什門流ともいわれ、現在の顕本法華宗に属する。(顕本法華宗とは明治31年11月11日からの公称) 重宝としては日蓮筆の曼荼羅、日什筆の曼荼羅、日泰筆の子安曼荼羅の三幅がある。



体験「布ぞうりづくり」…快適ライフのお手伝い…

日時 令和5年11月25日(土) 9:30～11:30
会場 「浜野会館」 参加者15名



令和5年度 賛助会員紹介

ご継続・ご入会ありがとうございます。

(浜野)久野敏夫様 太田圭右様

岩村 衛様 (塩田)田村真理様

現在の活動は

①展示事業【常設展示】【音声案内】

【DVD放映】…「海苔の出来るまで」
「お米のできるまで」の記録映像放映。
…旧生浜町役場庁舎にて。

②講座・講演事業 ○古文書学習会

○広報事業…地域

誌発行 ○郷土の史資料の整理。

○旧生浜町役場庁舎管理委託

…火木土曜日 9:00～16:30 公開・